学力向上を図るための授業改善推進プラン全体計画

令和8年度　小平市立小平第十一小学校

○教育基本法
○学校教育法
○学習指導要領
○東京都教育目標・方針
○小平市教育目標・方針
○小平市教育振興基本計画

教育目標

◎かしこい子【思考・判断・表現力】自ら学び、考えて行動し、責任をもつ子
○つよい子【体力、調整力、粘り強さ】めあてを決めて最後までやりぬく子
○やさしい子【コミュニケーション力】友達と仲良く協力し合う子
「自分で考え、自分できめて、やってみる児童」
未来への夢や希望を抱き、切磋琢磨し、成長を実感できる学校

○学校・児童・地域の実態
○期待される児童像
○保護者の期待や願い
○地域の期待や願い

確かな学力の定着と向上

基礎的・基本的な学習の定着

主体的・対話的で深い学びのある授業の実践

読書活動の充実

ICTを活用したこれからの学びを踏まえた授業の実践

教育課程の適正な実施

教員の授業力・指導力の向上

1　教科担任制（学年内交換授業）の実施
・3年生以上で年間を通して実施し、1・2年生でも実施する
・複数学級での同一授業の実施により、教材研究に基づく授業の質を高める

2　校内研究の推進
・研究構想に基づいた実践を重ねる
・学年ごとに分科会を構成し、学年の系統性、指導の共通性を意識し、少人数で協議する
・授業観察の機会を活かし、教員相互が授業参観をする

3　個別最適化された学びの実現
・各種調査結果に基づいて課題を明確化する
・ユニバーサルデザインの視点に基づいて、学習環境を整備する
・全学年で東京ベーシック・ドリルを活用し、実態を把握する
・放課後補充学習教室で個別指導する
・目的を明確にして、ICT機器を積極的に活用する

4　読書活動の充実
・朝読書や読書旬間の取組等、全学年での共通実践を継続する
・読み聞かせ等のきょうだい学級交流活動を実施する

OJTの活用
・職層に応じてメンバー構成したグループOJTの定期的な実施
・日常的な教員相互の学びを蓄積するペアOJTの実施

年2回の学校評価（7、12月）の実施
・児童評価、保護者評価、教職員評価
年2回の授業評価（7、12月）の実施
・児童の授業アンケート調査における“学びに向かう主体性”項目の向上を目指す

各教科の指導の重点

●国語
国語を適切に表現し正確に理解する力を育成し伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

●社会
社会生活について理解を図り、日本の国土と歴史の理解と愛情を育て、社会の形成者としての公民的資質を養う。

●算数
数量や図形の数学的活動を通して、基礎的な力を付け、筋道を立てて考える力を育てるとともに、数学的な活動の楽しさや数学のよさに気付かせる。

●理科
自然に親しみ、観察、実験などを行い、問題解決の力と自然を愛する心情を養うとともに、科学的な見方や考え方を育成する。

●生活
具体的な活動や体験を通して、自分と身近な人々、社会や自然とのかかわりに関心をもち、自立への基礎を養う。

●音楽
表現や鑑賞の活動を通して，音楽を愛好する心を育てるとともに、音楽活動の基礎的な力を養い、豊かな情操を培う。

●図画工作
表現や鑑賞の活動を通して、作り出す喜びを味わわせるとともに造形的な創造活動の基礎の力を養い、豊かな情操を培う。

●家庭
衣食住などに関する実践的・体験的活動を通して、家庭生活への関心を高めるとともに、家族の一員としての実践的な態度を養う。

●体育
心と体を一体として捉え、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、運動に親しむ力を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図る。

●外国語
言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませ、コミュニケーション能力の素地を養うと共に、読み書きに慣れ親しませながら、伝え合う基礎的な力を養う。

総合的な学習の時間

・「地 域」「キャリア（職業）」「SDGs」の柱で進める
・育てたい力を明確にし、系統性をもったカリキュラムを実施する
・探究の過程を繰り返し、主体的、協働的に学べるようにする
・学習者用端末を有効活用する

体力向上を目指した取組

・体育科で教科担任制などのシステムを実施し、体育の授業を充実させる
・なわとび旬間やマラソン旬間の取組を通して、めあてをもって運動することができるようにする
・養護教諭や栄養士と連携し、健康教育・食育を充実させる
・家庭と連携して運動の日常化を目指す
・食育、保健指導・保健学習の工夫を行う

特別活動の指導の重点

・委員会活動、クラブ活動を充実させる
・学級活動（３）において、「自分の生き方」を考えるキャリア教育を実践する
・異学年交流、きょうだい学級交流活動を充実させる
・「キャリア・パスポート」を活用して学びを蓄積させる
・自己肯定感を醸成する

生活指導の重点

・規範意識を醸成する
・危険を予測し、回避する判断力を育成する
・いじめの「予防」「見逃しゼロ」の意識を向上させる

特別支援教育の重点

・通常の学級においてユニバーサルデザインの視点で取り組む
・特別支援教室、関係機関と協働する
・特別支援教育に関する理解を促進する

地域学習・地域連携

・ゲストティーチャーや地域ボランティアを活用した「地域とのつながり」を感じる取組を充実させる
・学校ホームページを活用し、学校情報を適宜発信する
・PTAやCSと協働した取組を実践する

【授　業　改　善　に　向　け　た　校　内　体　制】

計画・実施・評価・改善	教育課程の重点化・効果的実践	家庭教育支援
1 キャリア教育の実践 →他教科や学校行事など教育活動全般に広げてキャリア教育を実践 2 校内研究の推進 →「よりよい人間関係や生活をつくり、自己のよさを生かす児童の育成 ～学級会の指導を通して～」を目指す授業づくりの実践 3 校内分掌組織体制 →プランニングシートの活用・蓄積 4 適正な教育課程の実施 →年間指導計画の作成・改善、週ごとの指導計画活用 5 授業改善推進プランの実施・改善 →改善内容を重点化して計画、実施し、適宜評価して改善	1 授業時数の確保 →水曜日午前5時間授業 →月ごとの授業時数集計 2 年間指導計画・評価規準の作成と見直し 3 学校評価の改訂 4 学校支援ボランティアの活用 →ボランティアの運営組織 5 ICT機器の効果的な活用 →授業、アンケート、校内放送等	1 基本的生活習慣・家庭学習の定着 →「早寝早起き朝ごはん」の生活リズム 家庭学習の啓発 2 保護者への啓発 →学校だよりの発行、スクールメール発信 →学校ホームページの更新 3 保護者への家庭支援 →家庭とのきめ細かな連絡、年間1回の個人面談実施 4 家庭学習サポートコンテンツ →学習者用端末の持ち帰り、活用 →デジタルドリル・デジタル教科書の導入